

第1回検討委員会 議事要旨

開催日：2008(平成20)年11月7日(金)、14:00～16:30

開催場所：都市センターホテル、5階「オリオン」

- 議事：1) 主催者挨拶(篠田昭新潟市長) 7) 委員長挨拶
 2) 委託者挨拶(国土交通省) 8) 新潟市における取組み(事務局)
 3) 関係省庁挨拶(内閣府) 9) 調査説明(事務局)
 4) 関係自治体紹介 10) 議論
 5) 委員紹介 11) 今後の予定、その他
 6) 委員長選出、副委員長指名

出席者：蓑原委員長、石黒委員、国崎委員、小林委員、小松委員、田村委員、山重委員、篠田委員(市長)
 オブザーバー(以下敬称略)…高橋(国土交通省都市・地域整備局都市・地域安全課)、田尻(内閣府政策統括官(防災担当)付)、村上(仙台市消防局防災安全部防災安全課)、木下(浜松市生活文化部防災対策課)
 事務局…佐藤(危機管理監)、土田(司会)、樋山、片桐、大旗、石井、楢原、勝田、寺脇、高森、島、加藤、菅原

配布資料：資料1…委員名簿

資料2…委員会設置要綱

資料3…調査実施計画書

資料4…「住民力の強化による安全安心なまちづくり」の基本的考え方

参考資料1…新潟市概要・説明資料

参考資料2…住民力の強化による安全安心なまちづくりの背景と課題

1. 主催者挨拶(篠田昭新潟市長)

委員の皆様、ご多忙の所、今回は委員をお引受けいただき、真に有難うございます。

また、国土交通省におかれましては、本市の提案をご採択いただき、大変有難く思っております。

新潟市は平成の大合併の中でも最大の15市町村が一緒になった大合併ということで、これを三次にわたり行い、本州の日本海側で初の政令指定都市ということで昨年移行した。この大合併と政令市移行で市民の皆さんが一番希望している物は、安全安心な暮らしをさらに構築していくことであろうと思っている。もちろん拠点化や、大変厳しい経済環境の中で雇用創出等も頑張りたいが、安全安心が全ての土台と思っている。そういう中で、行政の力だけでは安全安心な暮らしをしっかりと作って行くことができないので、我々新潟の市民力を大いに活用させていただきたい。こういうことで8つの区、全てで「自治協議会」を設置させていただき、また、基本的に小学校単位を中心として、97の「地域コミュニティ協議会」を作っていた。本格的に動き出した所もあれば、これからどこに重点を置いて活動しようか考え中という所まで、熟度は相当ばらついているが、協働の仕組みは作らせていただいた。

特にコミュニティ協議会の皆様には最低3つの分野で取組んでいただきたい。

1つ目は、教育、人づくりの分野で、もっと学校を地域に開き地域から支援される学校をつくることが1点である。また2点目は地域福祉である。新潟は幸い「地域の茶の間」や「うちの実家」という民間からの取組みがあり、今や地域の茶の間は全国ブランド化しており、そういう市民の力がある地域となっている。そして3点目がなんとといっても安全安心、防犯防災であり、この部分が市民の皆さんのお力を借りないと、とても行政だけではできない部分となっている。

こういう事を考え動いている中で、この安全安心なまちづくり方策検討委員会ということで、それぞれの分野の有識者や専門家の皆さんにお考えをいただき、新潟市は大きな街になったけれども安全安心の面も随分前進したと言っていたように頑張りたい。そして委員の皆様からは是非、具体的、実践的なアドバイス、ご提言をいただき、それを全国で新潟市が最初にチャレンジし、実績を挙げた街と言っていたように頑張りたいと思っているので、是非よろしくお願ひ申し上げます。

私は、今日は次の用務がありまして、途中で会議を抜けることとなりますがご無礼をお許し願ひます。本日は真に有難うございました。

2. 委託者挨拶（国土交通省）

国土交通省都市・地域整備局の中の都市・地域安全課長の高橋と申します。よろしくお願ひ致します。当調査は新潟市さんからのご発案、ご提案を受け、関係者が連携して調査を進める枠組みで、その取りまとめ役を仰せつかったのが私どもなので一言、ご挨拶させていただきます。

私どもの課はこの7月に新しく設置された。最近の想定を上回るゲリラ豪雨や想定しない所での地震の発生、或いは治安の問題等々、安全安心への国民の関心も非常に高まっている。これを受けて安全課が設置され、また社会資本整備審議会の都市計画部会の下に「安全・安心まちづくり小委員会」をこの9月に立上げ、議論を進めている所である。

小委員会では、安全で安心な暮らしのためには行政と地域と住民、或いは企業のそれぞれがリスクに関する情報をしっかり知った上で、それぞれが対応策を持つことが重要という基本認識で進めており、近年、洪水や地震のハザードマップという地図に落とした即地情報が充実しつつあるので、これを利用してまちづくりを進める絶好の機会と認識して取組んでいる。これ迄の分野別対応をまちづくりという観点から横断的、総合的に見ながらどう対応して行くかを検討している。総合的というと、地域防災計画担当の防災部局が中心になるが、その前提となる街をどう造っていくかという点については、都市計画や都市整備部隊が一緒になり連携して進める必要があるという認識で取組んでいる。その中で、特に安全安心のためには、自助、共助というものが不可欠で、ボトムアップの観点からの課題認識や地域力による対応が重要と考えている。小委員会でもこういう検討を進め、安全安心まちづくりのビジョンを今後取りまとめていく予定である。

そういう中でこの調査は、地域活力創発調査という関係者連携の枠組みを活用し、新潟市さんから発案されたテーマを検討していくということで、関係する国の機関として私どもの他、内閣府、警察庁、そしてご協力をお願いしている仙台市さん、浜松市さんと連携して進める枠組みである。

当委員会は新潟市さんの調査のための委員会であり、国は並行して別途調査を進めている。こちらと我々の調査を連携して進めることが重要なので、私どももオブザーバー参加させていただいている。関係者が協力して充実した調査となるよう期待を申し上げ、挨拶とさせていただきます。